

# CASE STUDY

\*  
KBS



“自社のシステムに対する理解度が高く、  
多様な構築経験を持つすばらしいパートナー社  
のため、信頼できました。”

KBS のキム様

## KBSデジタルニュースルームの構築事例

### 企業情報

会社名: KBS

設立年月日: 1973年 3月 1日

事業内容: 地上波放送業

紹介: 1973年に初めてラジオ放送を始めた公営放送社で、現在3つのTVチャンネル、7つのラジオチャンネル、4つのDMBチャンネルを運営している

スマートフォン利用者のうちの99%がスマートフォンでニュースを確認する時代になっている中で、伝統的な方式でやつてきた放送局は記事作成、流通、広告などの全部門でデジタル領域を導入することをデジタル中心の社会で生き残るために戦略だと思っている。

過去と違って、オンライン上でコンテンツの流通および配布が活発に行われる現在、KBSは韓国の3大公共放送局の中で初めてウェブ基盤の報道情報システム構築を成功的に終わらせ、メディア会社として可能性を見せている。

## 1. ニュースルーム事業を長期間にわたって進めていると思いますが、ニュースルーム事業についての簡単な説明をお願いします。

KBSでデジタルニュースルームの運営と推薦エンジンの構築を担当しているキム(監督)です。現在進行中の事業は、2014年からアイオンコミュニケーションズ社(以下アイオン)と共に、デジタルニュース3段階、4段階の構築とマルチプラットフォーム対応システム構築の1段階まで総3つのニュースルーム事業を行っています。

わたくしども制作するニュースルームは報道情報システムですが、記者たちがニュースコンテンツを制作するためのコンテンツマネジメントシステムであり、すべての放送局に必須的にあるシステムです。

-デジタルニュース3段階: デジタルニュースルーム事業の一環として、CS(Client Server)基盤の報道情報システム(NRCS、Newsroom Computer System)をウェブ基盤システムに転換する部分と共に2段階で不十分だった部分を高度化する過程。

-デジタルニュース4段階: デジタルニュースルームの基本的な枠は完成された状態で、ワークフローのデジタル化作業を進行するために追加的放送効果の作業進行。

## 2. 今回の事業を通してウェブ上で報道情報を具現化したと聞いています。それがKBSでどのような意味や価値をもつていますか?

デジタルニュース2段階からウェブ上で構築しましたが、そのときに周りの人々からウェブで具現した理由について質問を多く受けました。

報道情報をウェブで具現した理由はデジタルファーストという概念が登場したことと共に、ニュースコンテンツがネット基盤の配布及び流通がよく行われている現実で、'最新トレンドに合わせるために自社システムも変えなければならない'と思ったため、CS(Client server)基盤のシステムをウェブ基盤に転換する事業を行うことになりました。

以前とは違う新しいウェブ基盤の報道情報システムが登場した後、最初は使用者が慣れない部分が沢山あり、不便と感じましたが、オープンしてから2年が経った今は報道情報システムをウェブ基盤に転換したこと、得られた効果は大きいと判断しています。

## 2-1. 報道情報システムをウェブ基盤に転換したことが良い選択だったとのことです。上で回答していただいた内容の中で、デジタルファーストについて説明をお願いします。



Digital-First

デジタルファーストとは「紙新聞、TV放送といった既存媒体ではなくオンライン上で先に記事を掲載する方式」です。

「放送の影響力が少なかつたり、パワーがない。」という意味ではないですが、多くの人々がモバイルを通じてネット基盤のニュースコンテンツに目を通しているため、'放送と差別されたネットコンテンツが必要ではないか?'という視線からデジタルファーストを考えていって、「デジタルファースト時代にKBSがどのように対応していくべきか」を悩んだ結果、アイオン社と一緒にマルチプラットフォーム対応のニュースシステムを構築することになりました。

## 2-2. Web基盤へ転換することでどのような効果が得られたか、教えてください。



一つ目は、システム管理および運用側から見ると、既存のCS方式はシステムを修正するときに各使用者に個別的に再配布する必要がありました。現在はHTML5ベースのウェブ基盤の報道情報システムを利用し、サーバー側で修正をすると、クラウドへ自動的に配布されます。そのため、別途のアップデートや使用者ごとに個別対応が必要がなくなり、より効率的なシステムの運営ができるようになりました。



二つ目は、実際の使用者側からみると、デジタルコンテンツを製作するためのイメージ挿入、htmlのリンク挿入のような追加的な開発をする時により少ない費用で欲しい機能を作ることができるようにになりました。

The screenshot shows a news management system with various filters and search functions at the top. A large news article is displayed in the center, featuring a photograph of an F-35A fighter jet at night. The headline reads "F-35A 이스라엘(이스라엘 네비티 고구기지)". Below the headline, there is a summary of the news story.

KBSマルチプラットフォーム対応ニュースシステム ニュースハーフMain

### 3. 上記に続く内容の質問ですが、以前のバージョンとはどんな違いがありますか？また他社の報道情報と比べて、どのような違いがあるか教えてください。

他社の報道情報システムがどのような方式になっているかよく分からぬですが、弊社は報道情報システムをウェブ基盤で構築し、KBSワークフローに合わせた最適のシステムを構築したことでの差別性があります。この部分については会社内部的にとても満足しているシステムだと思います。

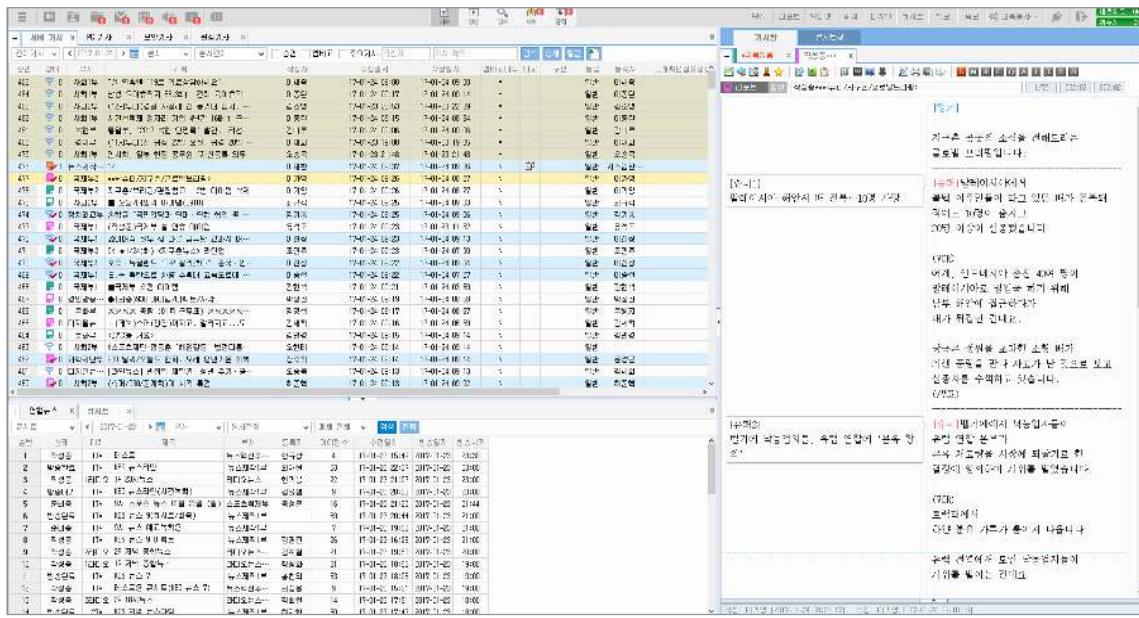
### 4. 今回の事業が成功した主な理由が何だと思いますか？

まだ進行中の状況ですが、KBSはデジタル中心時代で「何をするべきか」を明確に認識していますし、何よりもアイオントラストという良いパートナー社と協業したため、ここまで上手く進行できたと思います。

### 5. プロジェクトを行う際に大変だったことと、どのように解決したかを教えてください。

デジタルニュースルームは24時間中ずっと製作が可能で、いつも放送に発信できることができなければならないシステムです。

そのため、システムを構築する際に24時間ずっと問題なく動作するシステムを作るのが難しかったです。しかし、技術的にHTML5ベースの成熟した技術をたくさん使用することで、ウェブ基盤のシステムへの転換する時に発生した問題点をほぼ解決することができました。



KBSデジタルニュースルーム報道情報システムMain

6. 現在もニュースの分野ではデジタルファーストというテーマが話題になっていると思います。このような部分を考慮すると、ニュースコンテンツの流通/消費の発展方向について色々悩みがあると思いますが、今後KBSの計画について教えてください。

今までマルチプラットフォームのニュースシステムで外部コンテンツの流通やデジタルコンテンツ製作が便利にできるようなシステムを構築してきました。これからは使用者が便利にコンテンツを作成するように高度化して行く予定です。

また別途で、これからは今後のUHD、高画質、高品質のデジタルコンテンツを制作する部分においてもデジタルニュースルームを拡張する必要があると思っています。

7. 難しいプロジェクトを無事に終わらせた中で、もっとも重要なことは事業パートナーと関係だと思います。これについて一言お願いします。

アイオン社とは弊社のウェブサイトを構築するためのCMSから始めて、約10年近くパートナーとして協力してきました。

そのため、KBSシステムについて理解度が高く、多様なアーキテクチャシステムを構成してきたため、信頼できますし、どのようなプロジェクトも一緒にできるパートナーだと思います。現在もアイオン社とKBSの推薦エンジンを開発している中ですが、これからもアイオン社と一緒に様々なプロジェクトをしてみたいと思います。